

For Discussion Purpose Only

自己紹介とSCIJのご案内

2025年2月19日

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事

南雲岳彦



Smart City
Institute Japan

自己紹介 南雲 岳彦

- 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート代表理事、および三菱UFJリサーチ&コンサルティング専務執行役員。三菱UFJフィナンシャル・グループおよび三菱UFJ銀行の執行役員を経て、現職。
- 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授・同システムデザイン・マネジメント研究科特任教授、京都大学経営管理大学院客員教授、横浜市立大学特任教授、立命館大学客員教授、立命館アジア太平洋大学客員教授、ロイヤル・メルボルン工科大学シニアフェロー等を兼任。
- 規制改革推進会議、行政改革推進会議、産業構造審議会、独立行政法人評価制度委員会、公文書管理委員会、戦略的イノベーション創造プログラム等、各種審議会の委員、IPA DADCアドバイザーボードメンバー、国際連合人間居住計画（UN-Habitat）グローバルQoL指標施策パネル・メンバー、世界銀行シニアアドバイザー、世界経済フォーラム・フェロー等を歴任。
- 東京都、静岡県、兵庫県、山口県、渋谷区、横浜市、鎌倉市、小田原市、千葉市、浜松市、三島市、加古川市、会津若松市、前橋市、岐阜市、東広島市、尾道市、草津市、下関市、札幌市、茨城県境町等の自治体、非営利団体、民間企業におけるアドバイザー等を兼任。

設立後約5年で、会員数は、**約770**まで拡大。

ITベンダー、不動産開発、ゼネコン、銀行・生損保、シンクタンク・コンサルティングファームなど
様々な業種のトップ企業に加えて、**7つの省庁**、47都道府県の**300超の自治体**、さらには
全国各地の**大学**や各種**業界団体**等が会員として参加し、活動に展開しております。

- 名称：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート（Smart City Institute Japan）
- 設立日：2019年10月1日
- 役員：代表理事 南雲 岳彦（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング 専務執行役員）
専務理事 北村 達也（日本経済新聞社）
理 事 内山 清行（日本経済新聞社 常務取締役）
理 事 村上 裕史（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング 代表取締役副社長）
- 名誉顧問：柳川 範之（東京大学大学院 経済学研究科 教授）
村林 聡 （インターネットイニシアティブ 取締役副社長）
- エグゼクティブ・アドバイザー：27名
- 会員数：約770 正会員 A・B 80、準会員 29、賛助会員 約660（うち自治体 約350）

フォーラム・ウェビナー・講演会等を通じた情報提供・提言活動等

政府関係者、有識者、国際機関等が登壇した大型イベントを年に1回開催 主催フォーラム8回計 約2.1万名が参加

1) 特別フォーラムの開催（年1回、無料・一般公開）

計8回の参加者数 **約2.1万名**

※毎回、フォーラム終了後には、日本経済新聞社全国版に記事広告掲載

実施日	タイトル	参加者数
2019年 10月15日	「一般社団法人スマートシティ・インスティテュート設立記念フォーラム」日経ホールでの開催（懇親会付）	319
2020年 1月20日	「日本・バルセロナ スマートシティフォーラム」日経ホールでの開催（懇親会付）	680
6月29日	「日本型スマートシティアーキテクチャの実装に向けて」 オンライン開催	7,200
10月23日	「地球環境との共存で実現するウェルビーイングシティ」 オンライン開催	2,000
2021年 1月19日	「日本型デジタル社会実現に向けたオール・ジャパンサミット」 オンライン開催	5,538
2022年 6月30日	「デジタル田園都市国家構想によるスマートシティの本格実装」 ハイブリッド開催（正会員は会場に招待、懇親会付）	2,584
2023年 7月26日	市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ ハイブリッド開催（正会員は会場に招待、懇親会付）	1,098
2024年 7月24日	施策横連携によるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて ハイブリッド開催（正会員は会場に招待、懇親会付）	1,142
累計参加者数（8回）		約2.1万名

2024年7月24日開催／SCI-Japan特別フォーラム（設立5周年記念イベント） 「施策横連携によるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて」

スマートシティ・インスティテュート (SCI-Japan) 主催／日本経済新聞社共催

SCI-Japan 特別フォーラム ～SCI-Japan 創立5周年イベント～

施策横連携による デジタル田園都市国家構想の 実現に向けて

後援：内閣府、デジタル庁、総務省、経済産業省、国土交通省、環境省 ほか

ハイブリッド開催：一般：オンライン参加無料/SCI-Japan 会員（リアル参加可能）

2024.7.24水 10:00▶18:00

事前登録制
※申し込み定数に限りがありますのでお申込みはお早目に！

SCI-Japan 特別フォーラム
～SCI-Japan 創立5周年イベント～

施策横連携による デジタル田園都市国家構想の実現に向けて

2024.7.24水 10:00▶18:00
ハイブリッド開催
一般：オンライン参加無料/SCI-Japan 会員（リアル参加可能）

地域幸福度 (Well-Being) 指標活用、施策横連携による街づくり好事例を一望する
スマートシティインスティテュートは、7月24日（水）に「施策横連携によるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて」をテーマに、創立5周年を記念した特別フォーラムを開催。地域幸福度向上を目標としたデジタル田園都市国家構想の推進、医療、交通、観光、環境などの領域を超えた良政による施策横連携が都市経営人材育成で、デジタル田園に向けた様々なチャレンジを取り上げます。

【発表料】無料（事前登録制）
【定員】オンライン：2000名
【主催】スマートシティ・インスティテュート (SCI-Japan)
【共催】日本経済新聞社
【後援】内閣府、デジタル庁、総務省、経済産業省、国土交通省、環境省

お問い合わせ
SCI-Japan 特別フォーラム事務局
https://conf1.nep-sec.jp/form/Xb3ISR
お申し込みは上記のURLよりお申し込みください。
※お申し込みは7月17日（金）17:00までです。
※当日の都合により変更される場合があります。

事前登録受付中
7月24日（水）イベント終了まで
https://seminar.nikkei.co.jp/e/602788
※定員に達した際は締め切りますのでお早目に申し込みください。

プログラム：変更する場合がありますのでご了承ください。

10:00-10:05 | 主催者挨拶

柳川 龍之 SCI-Japan 代表理事 東京大学大学院経済学研究科教授

10:05-10:15 | 会場挨拶

岸田 里佳子氏 内閣府 デジタル田園都市国家構想実現推進事務局 内閣参事官

10:15-11:00 | 基調パネール

「ベストプラクティス横断連携によるデジタル田園都市国家構想の実現」
村上 敬亮氏 デジタル庁 総務省 国府内閣サービスグループ長
横本 研一郎氏 スマートシティ社会推進コンソーシアム 事務局長
海老原 誠一氏 AICT コンソーシアム 代表理事
砂川 洋輝氏 コーポレート・デジタル・イノベーション 海外大学・Innov8 専任客員教授
吉本 明平氏 全国地域情報化推進委員会 委員長 担当理事
※モデレータ：南雲 岳彦 SCI-Japan 専任理事

11:00-12:00 | 地域幸福度 (Well-Being) 指標活用 自治体事例パネール 1

長瀬 心香氏 千葉市 総合政策課 市民都市戦略課 スマートシティ推進課 課長補佐
岩崎 淳子氏 広島市 ことども・健康まちづくり部 ことども政策課 課長
三宅 昭広氏 茨城県 県政推進部 企画課 地方創生推進課 課長補佐
鈴木 ミユキ氏 デジタル庁 国府内閣サービスグループ 専任客員教授
※モデレータ：南雲 岳彦

12:00-12:15 | 協賛企業講演 NEC

「まちのレジリエンスを加速するITによる新たな資金メカニズム」
佐藤 美紀氏 NEC DX事業開発統括部長 シニアディレクター

13:05-13:25 | グローバル連携セッション 1

「国際スマートシティ学会 (ISC) 設立に向けて」
出口 敦氏 東京大学 教員 経済学
大田 孝典氏 東京大学 教員 経済学
越塚 登氏 東京大学 工学部 教授
※モデレータ：南雲 岳彦

13:30-14:00 | 地域幸福度 (Well-Being) 指標活用 自治体事例パネール 2

牧山 貴英氏 富山県 経済政策課 企画推進課 課長
和川 央氏 新潟県 県政推進部 企画課 地方創生推進課 課長補佐
小泉 秀樹氏 東京大学 工学部 教授
※モデレータ：南雲 岳彦

14:00-14:15 | 協賛企業講演 NECソリューションイノベータ

「誰にも病気になる未来、誰もが自分らしく生きられる社会」の実現に向けた取り組み
松尾 茂氏 NECソリューションイノベータ コーポレート・エグゼクティブ

14:15-14:25 | 協賛企業講演 TIS

「幸福度収集・可視化アプリ「OAS\$map」のご紹介」
多田 功氏 TIS ソリューションイノベーション事業部 デジタル社会サービス推進部 エキスパート

14:35-14:50 | 協賛企業講演 日本通商

「市民が主人公のデジタル化とその横展開」
福田 尚久氏 日本通商 代表取締役社長
国際経済政策研究センターのグループ長 兼 代表

14:50-15:10 | 協賛企業講演 電通

「施策横断連携により、県全域で進めるDXの「いま」～Digital田園都市ベスト4「ふくアプリ」の取り組みご紹介～」
森田 浩史氏 電通 戦略・イノベーション本部 スマートシティイノベーション
マネージャディレクター兼 部長
小林 拓実氏 ふくいのデジタル 代表取締役社長

15:20-16:15 | 施策横連携セッション：地域幸福度ベストスマートシティ

【特別発表】
酒井 典久氏 中野区 区長
（パネールディスカッション）
三田 裕信氏 東京都 文京区地域政策課 課長
杉浦 寛史氏 中野区 経済戦略推進課 課長
市川 伸之氏 中野区 産業振興課 課長
【特別発表】
北村 達也氏 SCI-Japan 専任理事（事務局担当）

16:25-17:15 | グローバル連携セッション 2 リレートーク

「日本と海外との都市間協働推進に向けて：東南アジアのスマートシティ事例紹介と日本の投資・共創機会」
【特別発表】
Delfin Lorenzana氏 フィリピン 本邦駐留大使館公使 (SCIDA) 参事
（リレートーク）
Irawan Harahap氏 シンガポール Digital Tech Ecosystem and Ecosystem Development CEO
岡田 秀樹氏 外務省 都市開発政策推進課 (次官) 参事官
（パネールディスカッション）

17:25-17:35 | 内閣府特別講演

「スマートシティ施策ロードマップ」
林 誠氏 内閣府 科学技術・イノベーション政策推進課 企画官（兼 課長補佐）

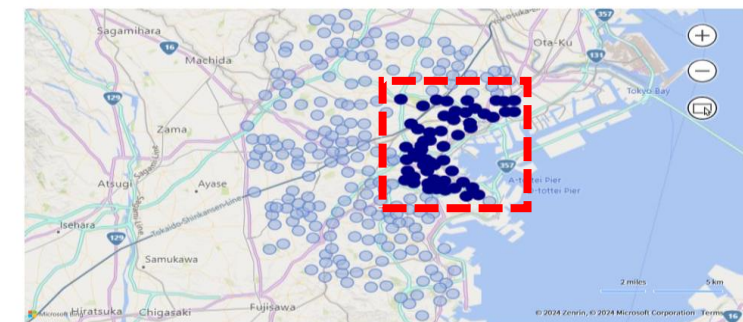
17:35-17:50 | 閉会セッション

白坂 成功氏 東京大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 研究科委員長 / 教授
海老原 誠一氏 AICT コンソーシアム 代表理事
※モデレータ：南雲 岳彦

SCI-Japan／地域幸福度（Well-Being）指標サイトにて、各種データ、ダッシュボード、ガイドブックを提供中

[サイトTOPページ](#)

6 データに基づく政策づくりや
より政策効果の高い歳出への転換に活用し
まちづくりに役立てる



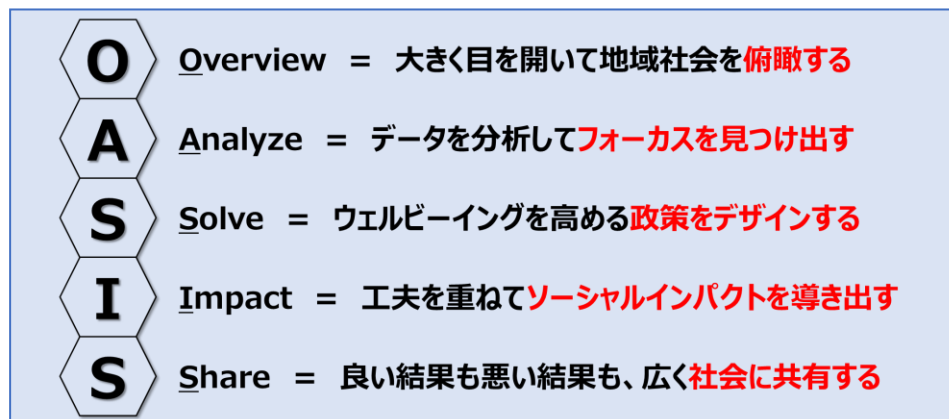
ウェルビーイング指標を活用した政策デザイン研修プログラム

ウェルビーイングに基づく政策デザイン（WBPD）習得のための「WBPD OASIS プログラム」を自治体・民間企業向けに本格展開

「WBPD OASIS プログラム」を全国各地で展開中 ガバメント、ビジネス、マスター、エグゼクティブ、1Day等 6つのコースを提供

- **ウェルビーイングに基づく政策デザイン（WBPD）**とは、「実践の手法」である。主観・客観の両データの有効性と限界を理解の上、価値観や倫理観、目的と文脈といった定性的な情報を加味し、市民の幸福感や暮らしやすさの実感を向上させることを目指す政策立案手法である。

【WBPD実践の5つのプロセス】



【OASISの標準プログラム】

講義 1・2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6
・ ウェルビーイングとは ・ 各種分析手法 ・ 内外の先進事例 ・ 内閣府等の既存データの紹介 ・ 日本人の幸福観と文化特性 ・ ディスカッション	・ 地域幸福度指標 ・ 主観 x 客観マトリクス ・ 相関分析 ・ 認知バイアス ・ 統合マップ作成 ・ ロジックツリー作成 ・ ディスカッション	・ 将来シナリオ作成 ・ バックキャスト ・ 政策ゴール設定 ・ インパクトの考え方 ・ ロジックモデル作成 ・ ファイナンス（SIB） ・ ディスカッション	・ 全体統合（宿題①～⑥を統合し、最終発表資料を作成） ・ ディスカッション	・ 首長あてプレゼン 1. ウェルビーイング分析結果 2. ウェルビーイング政策領域の選択 3. パルソナ別の政策目標・内容 4. 市固有の追加アンケート・KPI、及び分析手法
アサイメント 1	アサイメント 2	アサイメント 3	アサイメント 4	アサイメント 5
・ 宿題①（幸福度指標システム） ・ 宿題②（主観 x 客観分析）	・ 宿題③（統合マップ） ・ 宿題④（ロジックツリー）	・ 宿題⑤（バックキャスト） ・ 宿題⑥（ロジックモデル）	・ 宿題⑦（①～⑥の統合とブラッシュアップ）	・ 宿題⑧（最終発表資料の提出）

- 受講修了者には、下記の資格を付与

①WBPD OASIS Practitioner（実践者レベル）

6コマの研修参加（基礎理論・手法）、プロジェクト実践レポートの提出（審査あり）

②WBPD OASIS Master（指導者レベル）

10コマの研修参加（基礎＋応用理論・手法）、プロジェクト実践レポート2件の提出（審査あり）、Practitioner取得後、残りのコマを受講し、Master取得も可能

スマートシティに関するオンライン研修プログラム

City-Region MAPプログラムの立ち上げ、第1回・第2回で計106名に「SCI-Japanフェロー」の資格を付与

スマートシティ推進人材育成のための有料研修プログラム

『City-Region MAPプログラム』を2022年より開始（内閣府・総務省・国土交通省後援）

第3回は2024年8月に開講（61名）。第1回・第2回の修了者106名をSCI-Japanフェローに認定。

【4つのコンセプト】

①地域（City-Region）②共助（Mutually-supportive）③アジャイル（Agile）④参加型（Participatory）

【プログラムの特徴】

「地域幸福度指標（Liveable Well-Being City指標®）の活用」、「市民参加型のスマートシティ・まちづくりの実践」などのオリジナルコンテンツを中心に6つのカテゴリでプログラムを構成
全体で25コマ（24コマは平日18時～19時半の講義、1コマは土曜午後のワークショップ形式）

スマートシティ戦略・
リーダーシップ

市民対話
の実践

先進事例
の共有

スマートシティ
とルール

都市OS/
データ連携基盤

プレミアム
コンテンツ

＜第1回受講者の声＞



石川 沙莉さん
東京海上日動火災保険株式会社（東京勤務）

City-Region MAPプログラムでは、スマートシティを推進する上で欠かせない「地域幸福度指標」の活用について学びました。地域幸福度指標は、住民の生活の質を測る指標であり、スマートシティの実現に不可欠な要素です。また、地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。



掛橋 佳紀子さん
山形県庁（山形勤務）

地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。



佐藤 麗奈さん
リサーチ・デザイン・ラボ（東京勤務）

地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。



塚本 隆一さん
山形県庁（山形勤務）

地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。



多田 功さん
山形県庁（山形勤務）

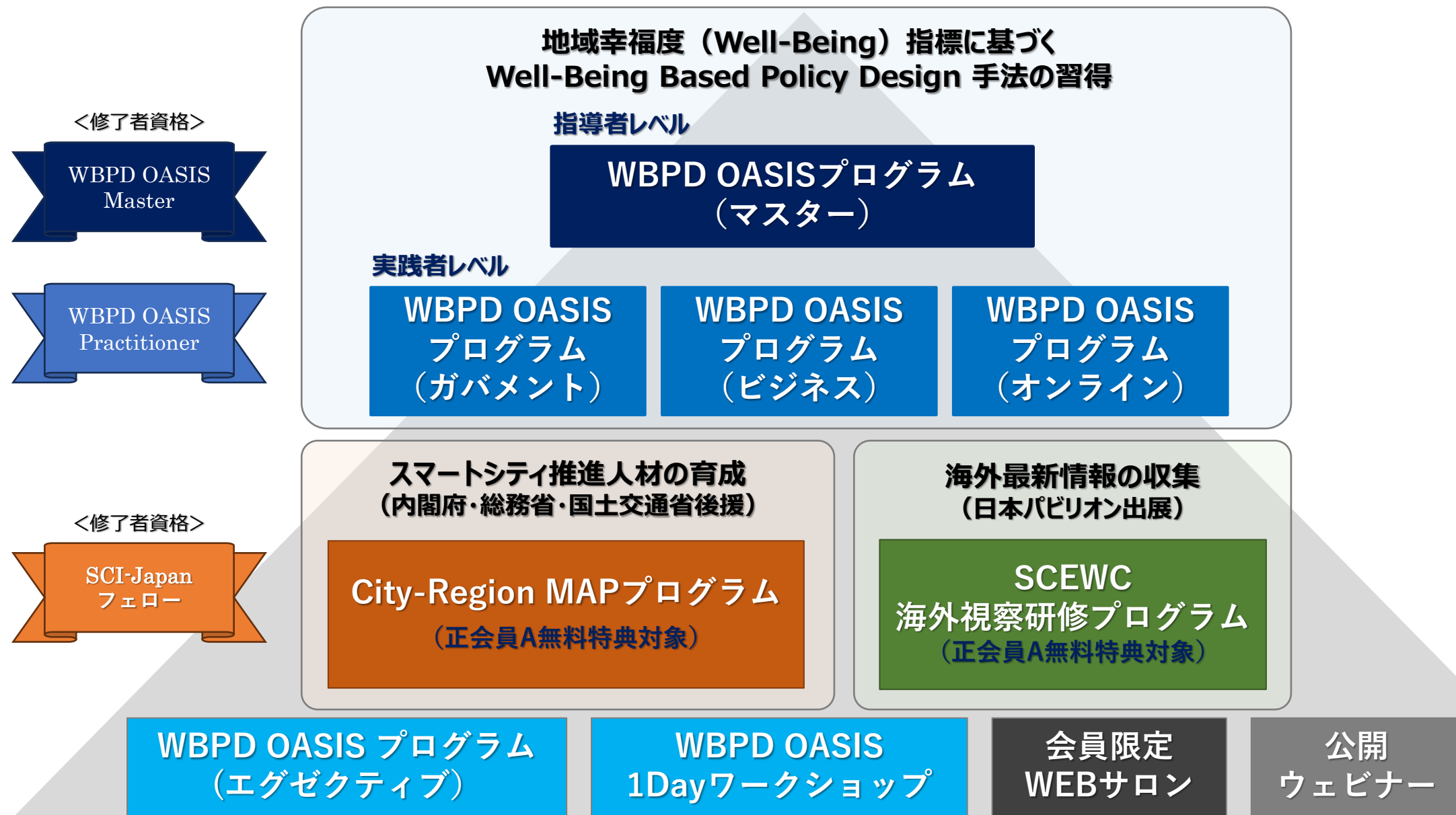
地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。



土屋 俊博さん
一般社団法人スマートシティ推進センター（東京勤務）

地域幸福度指標を活用することで、地域の課題を把握し、施策の効果を測定することが可能となります。このプログラムを通じて、地域幸福度指標の活用について学び、地域の実情に応じた施策の立案・実施に取り組むことができればと思います。

SCI-Japan／研修プログラム体系図



1) 会員限定WEBサロンの開催

ー毎回、スマートシティに関連した特定のテーマを設定（会員企業が企画を提案）。そのテーマに関心を持つ会員（企業・自治体・団体等）が参加し、座談会形式で情報共有・意見交換を行う。

	開催日	イベントテーマ	企画協力	参加者
1	2021.05.18	LPWAを活用したスマートシティソリューション	ZETAアライアンス（凸版印刷）	32名
2	2021.07.21	Well-Beingの向上を目指すData Driven社会の実現について（1回目）	セールスフォース	33名
3	2021.08.19	同上（2回目）	セールスフォース、神戸市	36名
4	2021.09.16	同上（3回目）	セールスフォース、PwCコンサル	21名
5	2021.10.08	スマート × シェアリングによる不動産活用～空き家の収益化とコミュニティ還元	Airbnb Japan	16名
6	2021.10.14	スマートシティ実装におけるクラウドの役割	AWS、浜松市、CFJ	22名
7	2021.11.30	市民の健康増進 & 生活習慣病発症・重症化予防に向けた取り組み	住友生命保険、鹿嶋市	20名
8	2021.12.20	「IIJ電子@連絡帳サービス」で推進する瀬戸市の「地域DX」医療介護連携・防災・介護認定審査の事例	インターネットイニシアティブ、瀬戸市	23名
9	2022.02.01	市民パネル～市民から継続的に声を集め施策を回す仕組みの構築に向けて～	インテージ、Koeeru	27名
10	2022.03.04	人流計測データのスマートシティにおける活用～LiDARを使った個人情報とらない計測サービスについて	日経リサーチ、中央大学	26名
11	2022.04.22	脱炭素社会をイニシャルコストゼロで実現する北九州市の取組	ダイキン工業、北九州市	21名
12	2022.05.24	自治体×海外スタートアップによる社会価値の創造	ICMG、愛知県、南知多町	22名
13	2022.08.04	3D都市モデル「PLATEAU」が実現する未来	国土交通省	23名
14	2022.09.13	行政の政策立案プロセスにおけるデータ利活用～滋賀県EBPMモデル研究事業～	滋賀大学	25名
15	2022.10.05	自治体における行政DXとデジタル通貨の活用とは～自治体での給付金支給の実証実験をご紹介～	インターネットイニシアティブ、会津若松市他	36名
16	2022.11.02	まちの幸福度と暮らしやすさの測り方～LWC指標とWell-beingダッシュボードのご紹介～	SCI-Japan	34名
17	2022.12.15	デジタル田園都市国家構想「三重広域連携モデル」から見る広域連携地域DXの効果と課題	大日本印刷、多気町	45名

	開催日	イベントテーマ	企画協力	参加者
18	2023.02.16	ゼロカーボンシティの実現を目指して～Google EIE の概要と活用事例のご紹介～	Google、小田原市、横須賀市、茅ヶ崎市	37名
19	2023.03.14	北欧のスマートシティに何を学ぶべきか（『北欧のスマートシティ』出版記念）	ロスキレ大学／安岡氏（SCI-Japan EA）	28名
20	2023.04.06	すべての人のウェルビーイングを目指す社会とは～発達障害の支援を通じて考える～	ADDS、SCI-Japan	21名
21	2023.04.18	スマートシティにおける防災の取り組みとは～ICTを活用した大規模災害への準備～	パーソルプロセス&テクノロジー、神戸市	22名
22	2023.05.18	デジタルツインってどうじゃない？～行政情報をまとめてプログラミングするための地図の使い方もわかり！～	Geolonia、高松市	33名
23	2023.08.02	柏の葉スマートシティで実践している「パーソナルデータ連携プラットフォーム」の産学連携による活用事例	UDCKタウンマネジメント	19名
24	2023.08.25	脱炭素とスマートシティで加速する都市の高付加価値化	岡崎市	26名
25	2023.11.28	コンパクト・プラス・ネットワークによる脱炭素モデル都市構築	宇都宮市	20名
26	2024.04.16	生活者の豊かな暮らしのためのデジタルサービス・プラットフォームの共同利用事例大公開！～柏の葉スマートシティ編～	UDCKタウンマネジメント	18名
27	2024.06.12	相続と防災から見た空き家データ分析ー社会学学生目線からのアプローチー	筑波大学	27名
28	2024.09.20	“曲がる太陽電池”の実用化に向けて～HESTAソーラーのご紹介～	HESTA大倉、法政大学	24名
29	2024.10.31	AI・データ活用における「倫理フレームワーク」/ 攻めのデータ活用のための49のチェックリスト～加古川市事例紹介～	JDMC、加古川市	21名



バルセロナ Smart City Expo World Congress

2022年にSCI-Japanの企画により、初めて“ALL JAPAN”でのパビリオン出展を実現、2023年、2024年もJapanパビリオンを出展

世界最大のスマートシティイベント「Smart City Expo World Congress」に、 3年連続でJapanパビリオンを企画・出展、同時に視察研修プログラムを実施

【SCEWC2024Japanパビリオン出展／視察研修】

開催期間	2024年11月5日～7日 ※視察研修は、11月4日～7日（現地集合・現地解散）
出展団体	Japanパビリオン（120㎡）、東京都ブース（120㎡）計240㎡に、 22社・団体が出展、ブース訪問者数 約2,800名 ＜主な出展団体・企業名＞ 東京都、内閣府地方創生事務局（つくば市、大阪市）、PLATEAU、 横浜市、神戸市、名護市、茨城県境町、ジェトロ京都、JAXA、JICA、 NEC、アビームコンサルティング、インターネットイニシアティブ（IIJ）、 H-U Tokyo Lab.（日立東大ラボ）、MAPXUS×川崎重工
イベント開催	1. Well-Being City Theater セミナー 計44回 2. 各国ブースとの相互訪問 3. 外部視察訪問（バルセロナ市役所、バルセロナHealth Hub） 4. 在バルセロナ日本総領事館共催レセプション「ジャパン・ナイト」
日本視察団 参加者数	総人数145名 （うち視察研修プログラム参加者46名）

【2024年の様子】



Smart City Expo World Congress 2023 特集記事を企画・掲載



脱炭素ヘデジタルツインも駆使

SMARTCITY
 EXPO WORLD CONGRESS

バルセロナのスマートシティエキスポ

世界最大規模のスマートシティ建設イベントである「スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）」が11月7〜9日にスペインバルセロナで開催された。会場はハイテクで、1日参加費が約1,500ユーロ（約20万円）と、The Next Urban Earth（以下、TNEU）として、約140カ国、100都市が参加する。511の自治体と、約1,000人の企業、研究者、投資家、政府関係者が参加した。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。



スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

Smart City Expo World Congress
 (Barcelona World Congress)





スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス

ウゴ・パンティエリ

街の幸福感向上を目標に

スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

スマートシティエキスポ・ワールド・カンファレンス（SDCWC）は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。会場は、スマートシティの未来を展望する。

企画・編集・写真・イラスト・写真提供
 エキスポ・ワールド・カンファレンス

広告

Smart City Expo World Congress (SCEWC) 2023

日本パビリオン・視察研修団

盛況御礼

3) 海外の提携機関との協働イベント等による海外最先端情報の提供

ー 海外のスマートシティ関連の専門機関・団体とのアライアンスを積極的に推進し、その知見やノウハウをイベント等を通じて、会員の皆さまへ提供

提携先	概要
Open & Agile Smart Cities	世界中の都市間のデジタル推進を支援するベルギーの非営利団体
MyData Global	パーソナルデータに関する個人中心のアプローチを推進するグローバルな非営利団体
FIWARE Foundation	FIWAREの普及を民間主導で推進するグローバルな非営利団体
Greater London Authority	英国のグレーター・ロンドンにおいて最上位に位置する地方自治体
Connected Places Catapult	英国のオープンイノベーションを推進する非営利団体
Royal Danish Embassy in Japan	駐日デンマーク王国大使館
Spain Embassy in Japan	駐日スペイン大使館経済商務部
Fira de Barcelona	バルセロナの世界最大級スマートシティイベントSmart City Expo World Congressを主催
Smart City Innovation Cluster	フィンランドに所在を置くスマートシティ分野の大手企業や機関の協働組合
Smart City Association (SCA)	韓国におけるスマートシティを推進する政府系団体
WeGo (World Smart Sustainable Cities Organization)	ソウルに事務局を置く、アジアを中心にスマートシティを推進する非営利国際団体。WeGoの会員数は200を超え、中国、ロシア、トルコ、メキシコに海外事務所を設置
Institute for Information Industry (III)	台湾の通信部門を支援する非政府組織
TAIPEI COMPUTER ASSOCIATION	台湾のICTセクターの非営利法人（メンバーのICT産出額は台湾総ICT産出額の90%以上を占める）
Eden Strategy Institute	シンガポールの研究機関。独自のスマートシティ・ガバメントランキングを公表
SmartCT	フィリピンに事務局を置く、アジアのスマートシティを推進する団体
Royal Melbourne Institute of Technology (RMIT)	Centre for Urban Researchを有し、都市を評価するLiveable Indicatorの開発、展開に取り組む公立大学。ハノイ、ホーチミンにキャンパス、バルセロナに研究拠点を有する

入会団体	会員種別
グローバル・スマートシティ・アライアンス (GSCA)	パートナー
Open & Agile Smart Cities (OASC)	会員
日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会 (JASCA)	会員
FIWARE Foundation	Associate member

登壇した自治体・取り上げた海外諸国

イギリス、オランダ、スペイン、デンマーク、ベルギー、フィンランド、ドイツ、スウェーデン、エストニア、ルーマニア、オーストリア、韓国、中国、フィリピン、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、米国、ブラジル、エクアドル

海外の提携団体との連携によるウェビナー・講演配信 （団体名は当時のもの）

世界銀行東京開発ラーニングセンター (TDLC)、英国大使館、Connected Places Catapult、Economist、Export to Japan、Nordstrom International、スペイン大使館、バルセロナ市、Fira de Barcelona、Factual-Consulting、FIWARE Foundation、Open & Agile Smart Cities (OASC)、MyData Global、日欧産業協力センターベルギー事務所、Nordic Innovation House、NordicBiz、Business Finland、フィンランド大使館、Espoo Marketing、e-Governance Academy、Enterprise Estonia、エストニア大使館、ルーマニア大使館、UrbanizeHub、ASEAN Smart Cities Network、APEC、World Smart Sustainable Cities Organization (WeGO)、Centre for Liveable Cities (CLC)、Eden Strategy Institute、SmartCT、ビクトリア州政府、Royal Melbourne Institute of Technology (RMIT)

自治体向け定点観測アンケート

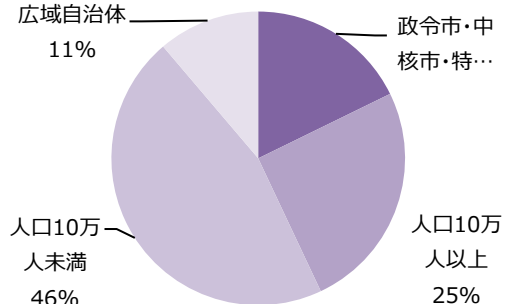
日本のスマートシティ本格導入ステージにおける主要課題を抽出するため、アンケート調査を毎年実施

- 自治体（賛助会員）を対象にした年1回の定点観測アンケート調査を実施
- 集計・分析結果をレポートとして提供するほか、SCI-Japanウェビナーにて詳しく解説

【第4回アンケートの調査概要】

タイトル	第4回スマートシティ推進に関するアンケート
調査対象	SCI-Japan賛助会員である地方自治体
調査期間	2023年10月～12月
調査項目	22問
配布・回収数	配布299自治体、回収107自治体、回収率36%

回答自治体の内訳＜都市規模別＞



SCI-Japanウェビナー（アーカイブ）



2024.04.17 特別企画／スマートシティの現状と今後の...

【主要アンケート質問項目（24項目）】

スマートシティ推進上の課題・制約

- ① リーダーシップ/アーキテクト*
 - Q1: 首長のリーダーシップの欠如・無関心
 - Q2: アーキテクト（総合プロデューサー）がいない
- ② 導入目的・意識・コンセプト
 - Q3: 導入目的が不明確・課題意識が弱い（困っていない）
 - Q4: 導入コンセプト・戦略や計画があやふや・不在
- ③ 情報源・相談相手
 - Q5: 政策情報源や（霞ヶ関等）相談相手へのアクセスが弱い
 - Q6: 導入ノウハウ、成功・失敗事例等の実践情報の収集が困難
- ④ 政策優先度・予算配分
 - Q7: スマートシティ政策の優先順位が低い
 - Q8: スマートシティ政策への予算配分が不十分
- ⑤ ビジネスモデル・マネタイズ
 - Q9: スマートシティの各施策をビジネスモデルに転換できない
 - Q10: ファイナンス方法やマネタイズ方法の目途が立たない
- ⑥-1 デジタル人材
 - Q11: ICTやデータに強い人材が不足している
- ⑥-2 デジタルインフラ（都市OS等）
 - Q12: データ連携基盤の構築・都市OSの導入ができない
- ⑦ 組織構造・文化
 - Q13: 組織が縦割りでスマートシティ導入に適さない
 - Q14: 組織文化が保守的で変革を嫌う。変化は評価されない
- ⑧ プロジェクト推進能力
 - Q15: スマートシティ担当チームの規模が小さ過ぎる
 - Q16: スマートシティ担当チームの権限が小さ過ぎる
- ⑨ 地域での合意形成・市民参加
 - Q17: ステークホルダーとの合意形成やガバナンス構築が困難
 - Q18: スマートシティ導入に関する市民の参加意識が低い
- ⑩ 地域パートナー・人口規模
 - Q19: 地域に産官学民連携パートナー（リソース）がいない
 - Q20: 人口規模が小さく、単独ではスマートシティ導入は困難
- ⑪ 法規制・手続・慣行
 - Q21: 法規制・手続が複雑または多過ぎ、改革負担が過大
 - Q22: 法規制・手続・慣行への順守意識が強すぎ、変化を嫌う
- ⑫ 情報セキュリティ対応
 - Q23: 個人情報の取り扱いに関する条例改正の負担が過大
 - Q24: 情報セキュリティの強化に関する対応の負担が過大

本資料のご活用に向けて

- 本資料は、信頼できると思われる各種公開情報・オープンデータ等に基づいて作成されていますが、当法人はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくご利用様の決定、行為、及びその結果について、当法人は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと明記してください。